



広報

あしあ

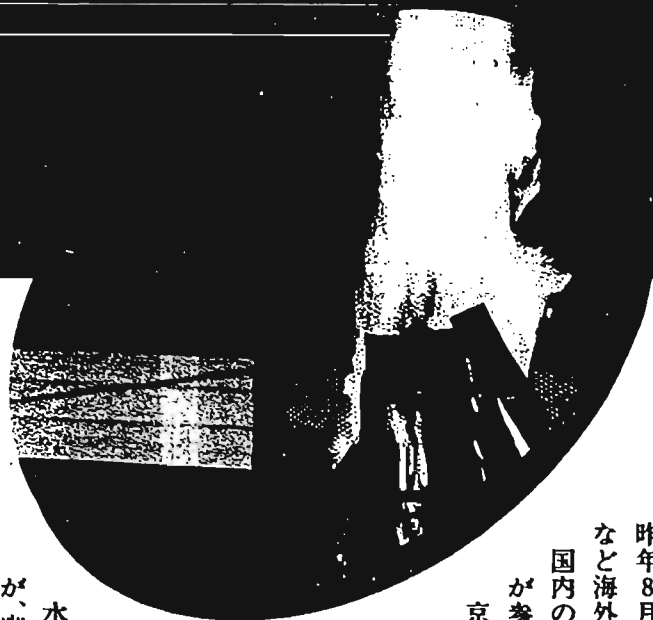
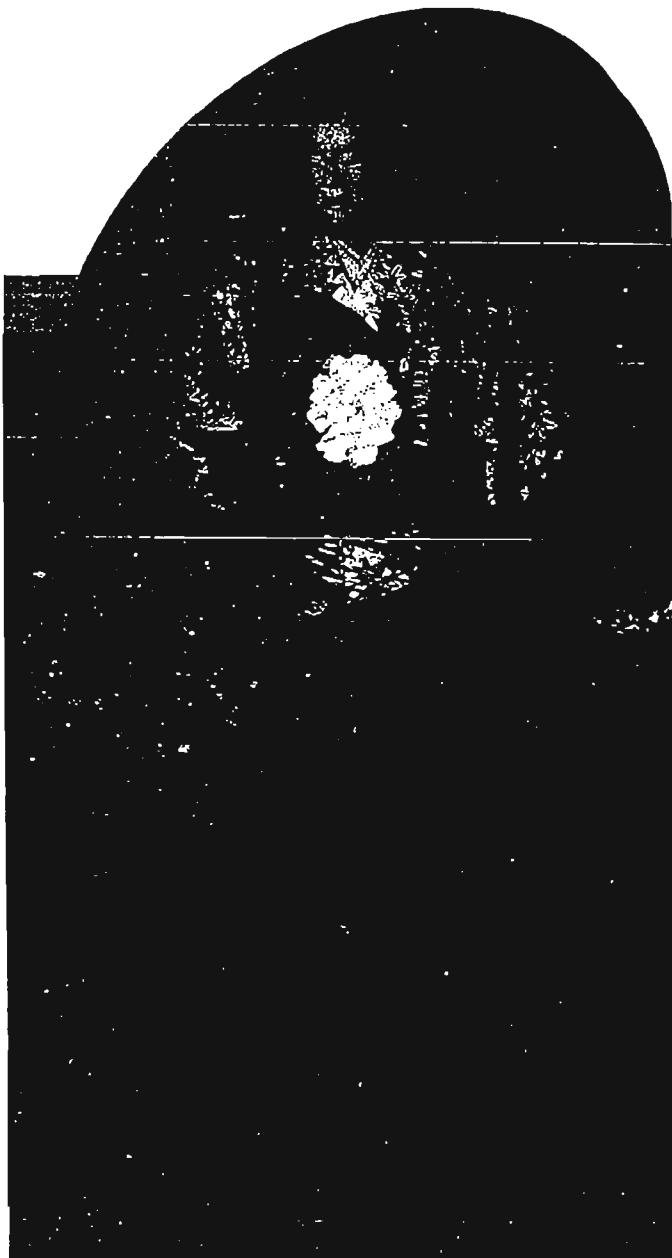
新年号

昭和64年

1/1

No. 729 発行: 東京都豊島区 編集: 企画部広報課 〒170 豊島区東池袋1-18-1 ☎981-1111

迎春



薪能

昨年8月に、アメリカや韓国など海外から5か国、これに国内の劇団を加え42の劇団が参加し開催された「東京国際演劇祭'88池袋」。その公演の一つとして「としま薪能」は、8月13日・14日の両日、サンシャイン60の隣にある東池袋中央公園の滝と木々を背に開催されました。

水面に映えるかがり火が、幽玄な世界をかもし出すなか、和泉流 野村万之丞氏演じる「蚊相撲」、そして観世流 観世元昭氏演じる「葵上」に満員の観客は、日本の伝統芸能をたんのうしました。

謹んで新春の

ごあいさつを申しあげます

昭和64年 元旦



豊島区議会議長
今泉 義明



豊島区長
加藤 一敏

大賞
64票

須藤 哲夫 31歳
(雑司が谷2丁目在住)

「ロボットのデザインは、料理につきものの卵を基に考えました」「描く時心掛けたのは、一目見てすぐ分かることですね」「毎年このコンテストに参加するのは、一部の方からでも良いから評価をしてもらえることが大変嬉しいからです」「インスタント時代をちょっと皮肉ったかな...。料理は、やはり親の手づくりが一番。ちなみに私は、母親の作ってくれた煮物が一番好きでした」



須藤哲夫さん

夢を未来を生活を 描く空想も科学です

—としま・マンガコンテスト—
各賞決定・発表!



今回で9回目を迎えた「としま・マンガコンテスト」。昨年は、44歳の応募があり、主催者側も作品の展示に大わらわの状況でした。このため、投票していただく一般の方も大変な状況で、今回は、この点を考慮して応募作品数を少し絞る形で応募要綱とさせていただきます。

そのためか、今回の応募作品数は第1回目の「としま・マンガコンテスト」と同数の41点。再び少数での、腕くらべ、知恵くらべとなりました。

応募者は、下は6歳の男の子から上は72歳の男性。有効投票総数は30票。この票の中には、中田からいらつしやつた方と思われる名前の方の投票もあり、マンガが、万国共通、言葉が必要としなくても分かることができる要素を持っていることを感じさせられました。

なお、「としま・マンガコンテスト」へ応募いただいた方ならびにご投票いただいた方々に、この紙面を借りてお礼申し上げます。

(敬称略)

小6年

入選
24票

梨木 利明 14歳
(埼玉県大井町在住)



佳作
11票

田中 隆三 小学4年



佳作
9票

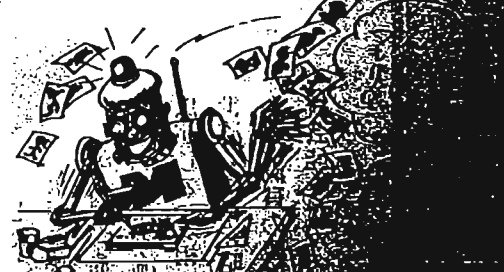
元川 隆三 小学3年
(池袋2丁目在住)



佳作
20票

武田 信二 72歳
(千早町2丁目在住)

マンガで書くロボット



佳作
9票

飯泉 貴文 富士見台小5年
(南長崎1丁目在住)

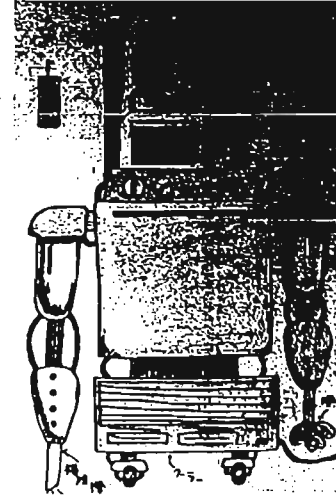


佳作
10票

佐藤 崇 第十中3年
(千早町4丁目在住)

佳作
10票

島津 清隆 目白小6年
(目白2丁目在住)





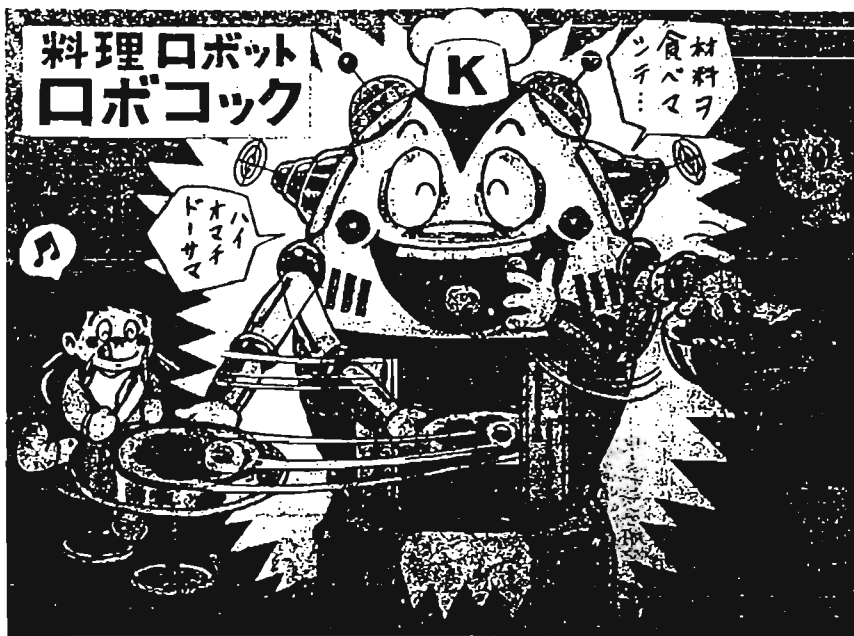
賞 35票

中村 総美 24歳 (池袋本町1丁目在住)



中村総美さん

「私は、話し相手をするのが好きなので描きました。でも、締め切りギリギリでの応募だったので...」
「ロボットには、ただの機械ではなく、人間味のある部分を加えたいと思いました」「第1回で入選できたのが嬉しくて、応募を続けてきました。一時形勢の劇団にいたことがあって、その経験が絵に生きているかな。いところイラストレーターなのでその影響もあるようです」

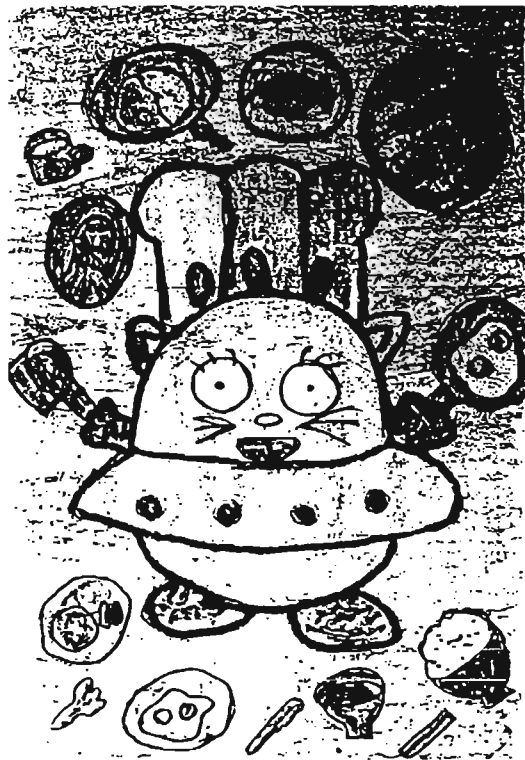
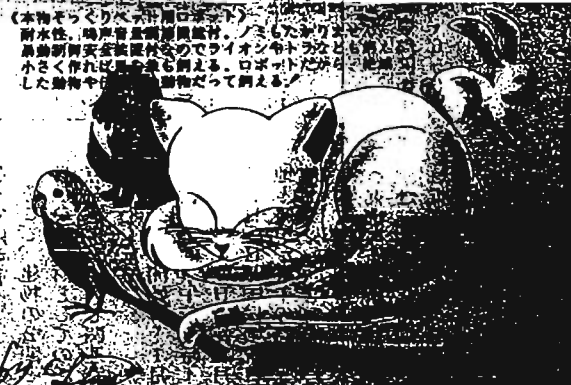


入選 24票

林田 公明 57歳 (上池袋3丁目在住)

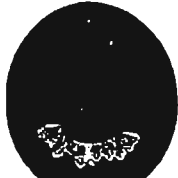
入選 25票

板橋 貞美 17歳 (東池袋5丁目在住)



特別賞 15票

宮越 ゆう子 目白 (目白4丁目在住)



宮越ゆう子さん

「学校では、絵画クラブに入っています」「料理ロボットを描いた理由は、掃除は同じ事のくり返しですけれども、料理は毎日違うものにしなければならなくて大変だからです」「ロボットのデザインは仰からず、色の感じが一番苦めました」「1時間ぐらい描いて、できた時は、うまくできたなと思いました」「食べ物の中では、おすしが一番好き。マンガは、見るより描く方が好きです」

*大賞に投票いただいた方のなかから抽選で5名の方にお贈りする図書券は、賞品の発送をもって発送のご案内をさせていただきます。ご了承ください。

現代の漫画や劇団の潮流は、その表現方法が違っても、江戸初期ころまでさかのぼることができる。

江戸初期、京都と大阪で生まれた「鳥羽絵」や近江田(現在の滋賀県)の大津で売られた「大津絵」が、京都や江戸で人気を得ていた。

浮世絵は、江戸で発達し全国へ広がったが、風刺浮世絵分野で江戸独自の生命力をみせたのが「輪絵」である。これは、当時、地震は地下の龍があらはれて起きると信じられており、地震後輪絵をテーマにし、龍へのうらみや地震でうけた商人たちへののたまを描いたものである。

明治以後、イギリス人のC・F・クママンが横浜で創刊した雑誌「ジャパン・パンチ」に由来し、江戸東京の人々は漫画のことを「ボンチ」とよぶ。

明治7年、横浜在住の坂本武吉が東京の河鍋曉斎と共同で日本最初の漫画雑誌「絵新報(日本版)」を発行する。3年後には「珍聞」が発行され、やがて全国誌となっていく。

明治34年、大阪で宮武外骨によって創刊された漫画雑誌「海潮新聞」は、遠慮ない権力・世相風刺で人気を博し、これを耳にした時事新報漫画記者の北沢桑天は、有楽社という出版社をつつた中村錦一郎の協力を得て漫画雑誌「東京ハッパ」を創刊する。この「東京ハッパ」は、日露戦争期から明治40年代にかけての漫画ブームをつくりだし、漫画出版の中心地を大阪から東京へ移すきっかけをつくる。

大正12年の「アサヒグラフ」には、「正チャンの冒険」が連載され、「東京田舎新聞」連載の「回子半助漫遊記」とともに子供漫画のヒーローが誕生する。

昭和7年、岡本一平のもとに近藤日出造、杉浦幸雄、永井保(本紙、昭和9年2月15日号)7月15日号の「わたしの漫遊記」

執筆(ら)が集まり、東京で新漫画派集団を結成し、以後漫画界の主流となる。

第2次世界大戦後、大阪のマンガ界で活躍していた手塚治虫は、昭和25年、東京の出版社学童社の「漫画少年」に「ジャンプル大帝」を連載し、戦後の子ども漫画界に多大なる影響を与える。

手塚治虫の東京での当初の仕事場が、豊島区椎名町の「パー」のトキワ荘である。以後、つづきと地方の漫画家志望の青年たちが、このトキワ荘に住み込んでくる。寺田ヒロオ、赤塚不二夫、石ノ森章太郎、水野英子、藤子不二雄(藤本弘、安孫子素雄)本紙昭和63年4月15日9月15日号の「わたしの豊島紀行」執筆者の2人のペンネームなどがやってくる。戦後の漫画界は、地方の才能ある人々から、東京の出版社からデビューする傾向がますます顕著になる。

戦後、長谷川町子作の「サザエさん」が、朝日新聞に長期連載され大ヒットとなる。それとともに全国紙は社会面に掲載する4コマ漫画を重視するようになり、「毎日新聞」の「ダンスク」、「読売新聞」は「サンワリ君」などの人気漫画を誕生させた。また一枚絵漫画の分野も近藤日出造、横山泰三、松山文雄らの風刺風刺が人気をよんだ。

「劇団」という言葉は、昭和32年、大阪の資本漫画誌のなかで生まれ、白土三平の「忍者武芸帳」などが描く反体制思想や心情描写が、昭和41年から44年にかけて全国的におこなった大学紛争期の学生たちに支持され、劇団ファン層はひろがっていく。

一方、子ども漫画は、戦後、少年漫画と少女漫画に分かれ、今日に至っている。(文中敬称略)

*「江戸東京学群」(発行：朝日新聞) 昭和42年12月10日の「漫画発展の頃より」を参照。

成人の日 豊島区民

1月15日(祝) 午前10時30分から(開場10時) 豊島公会堂と区民センターを会場。昭和43年4月2日から昭和44年4月1日まで誕生された、豊島区内にお住まいの方の①内容: 公会堂②記念式典③講演「私と柔道」ソウルオリンピック女子柔道代表選手 山口 香氏④豊島区管弦楽団コンサート(区民センター)



●山口香
昭和53年、全日本女子柔道選手権大会で初優勝。以後10連覇を達成(52kg以下級)。昭和59年、第3回世界柔道選手権大会で金メダル。福岡女子柔道選手権大会では、2年連続優勝。ソウルオリンピック女子柔道に、日本代表選手として出場し、銅メダルを獲得。

●赤木りえ(本名: 赤木利恵)
4歳からバイオリン、5歳からピアノ、11歳の時からフルートを始める。大学の音楽科フルート専攻卒業後、ミュージカルやスタジオオ等の仕事で活躍。昭和60年、フーストアルバム「PUZZLE」発表。最新アルバムは「ファンタジア」。ライブ活動以外にも活躍中。

豊島区コミュニティ振興公社 豊島区民の生と

2月10日(祝) (講演) 午後4時30分から(観劇) 午後6時から サンシャイン劇場内容: (講演)「杉村春子と昭和史」講師: 演出家 皮井市郎(観劇)「女の一生」主演: 杉村春子、北村和夫(費用: 3,500円) (特別鑑賞料: A席) (定員: 300名) (多数の場合抽選) (中



年始の窓 都税の窓口

都税の申告や納税、各種証明などの事務取扱いは、1月4日(祝)から始まります。休みの期間の申告書、申請書の受付は、地下1階出入口の左側「申告書受付」へお入れください。なお、控の返送を希望される方は、返信用切手、封筒をお忘れなく。

●詳細: 豊島都税事務所 ☎981-1211

年始の窓 年始の休日診療のご案内

年始のお医者さんがお休みのときは、休日診療所をご利用ください。(1月5日まで)。

●豊島休日診療所
池袋保健所 ☎980-4171
長崎保健所 ☎980-1191

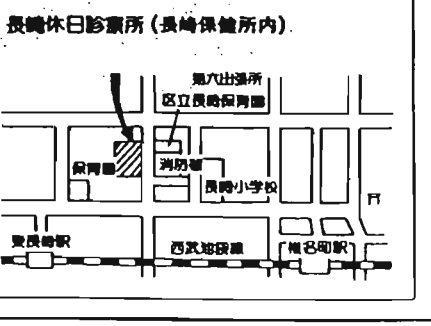
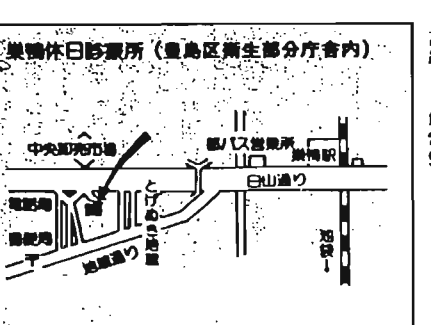
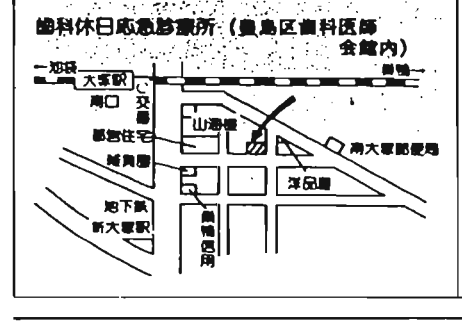
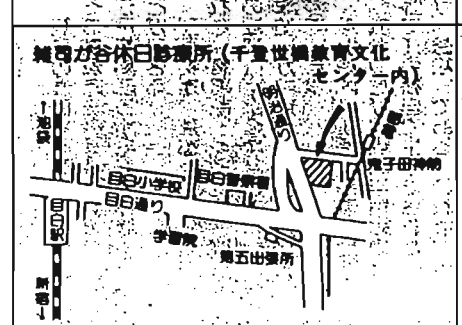
●豊島休日診療所
豊島4の22の17(豊島区衛生部分庁舎内) ☎980-6561
診療時間: 午前9時~午後5時

●鎌倉が谷休日診療所
鎌倉が谷3の1の7(千登世橋教育文化センター内) ☎590-1258
診療時間: 午前9時~午後5時

●長崎休日診療所
長崎3の6の24(長崎保健所内) ☎980-3385
診療時間: 午前9時~午後5時

●豊島休日診療所
池袋休日夜間診療所
池袋3の22の16(豊島区歯科医師会館内) ☎980-0198
診療時間: 午前9時~午後10時

●眼科: 耳鼻咽喉科など
休日の午前9時~午後5時



年始の区の窓口

年始の区の窓口、各施設の開始は左表のとおりです。

施設名	開始日時
池袋保健所	1月4日 午前9時
長崎保健所	1月4日 午前9時
豊島区役所	1月5日 午前8時
池袋駅前	1月5日 午前10時
池袋西口	1月5日 午前10時
池袋東口	1月5日 午前10時
池袋西口西側	1月5日 午前10時
池袋西口東側	1月5日 午前10時
池袋西口北側	1月5日 午前10時
池袋西口南側	1月5日 午前10時
池袋西口西側西側	1月5日 午前10時
池袋西口東側東側	1月5日 午前10時
池袋西口北側北側	1月5日 午前10時
池袋西口南側南側	1月5日 午前10時
池袋西口西側西側	1月5日 午前10時
池袋西口東側東側	1月5日 午前10時
池袋西口北側北側	1月5日 午前10時
池袋西口南側南側	1月5日 午前10時

年始の保健所 検査受付

施設名	検査受付時間
池袋保健所	1月4日 午前9時
長崎保健所	1月4日 午前9時
豊島保健所	1月5日 午前9時
池袋保健所	1月5日 午前9時
長崎保健所	1月5日 午前9時
豊島保健所	1月5日 午前9時
池袋保健所	1月5日 午前9時
長崎保健所	1月5日 午前9時
豊島保健所	1月5日 午前9時

谷田司教開館

この建物は、明治40年にアメリカ人宣教師ジョン・ムーディマッケーレフにより建てられたもので、豊島区最古の木造洋風建築であり、また、豊島区の登録有形文化財の第1号ともなっています。

そこで、建物の公開と同時に、貴重な文化財としての活用を重点を置き、館内関連資料の展示を行います。

◆公開の開始日: 1月26日(木)
◆開館時間: 午前9時~午後4時30分(休館日: 毎週月曜日・第3日曜日・国民の祝日)◆所在地: 鎌倉が谷1の25の5(利用交通機関: 都電「鎌倉が谷駅」)

極教

1月9日~13日27日の毎週月曜日 午前10時30分から、高州ことぶきの家内容: 氣功と八段錦と大極拳◆講師: 医師 金田義人氏◆費用: 無料◆申込み: 1月5日から(電話可)◆詳細: 当館 ☎980-8601

カド

目白図書館では、手作り大規模カルタや「郷土かるた」を使って、カルタ会を開きます。

1月7日(日) 午後2時30分から 目白図書館区民集会所◆対象: 小学生以下◆費用: 無料◆詳細: 当館 ☎980-7121

水泳

1月14日(月) 午後1時30分から 千登世橋教育文化センター内展示室◆上映作品: 「カサランカ」◆費用: 無料◆定員: 100名(先着順)◆詳細: 鎌倉が谷図書館 ☎980-1254